

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1495200048
法人名	社会福祉法人ばなな会
事業所名	グループホーム のんびりーす
訪問調査日	平成25年9月25日
評価確定日	平成25年10月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
 外部評価は20項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [次ステップに向けて期待したい内容]  
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 25 年度

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495200048	事業の開始年月日	平成21年4月1日
		指定年月日	平成21年4月1日
法人名	社会福祉法人ばなな会		
事業所名	グループホーム のんびりーす		
所在地	(211-0025 ) 川崎市中原区木月 4 - 5 4 - 1 4		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	16名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成25年9月13日	評価結果 市町村受理日	平成25年12月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居様が家庭的環境の中で、日々穏やかに自分らしく暮らせ根のような施設作りと、相手側に立った寄り添う介護に努めております。また、地域に密着するよう、自治会への参加、地域包括支援センター等との協働を積極的に図っております。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Y ビル2F		
訪問調査日	平成25年9月25日	評価機関 評価決定日	平成25年10月31日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①経営母体は社会福祉法人ばなな会です。同じグループの(株)アイ・ディ・エスと共に川崎市内に大きく展開しており、9か所のグループホームがあり、11月1日には10か所目の「のんびりーす等々力」が開所予定です。ホームの場所は東急東横線元住吉駅から日吉駅から徒歩15分程の所に位置し、綱島街道から少し入った、近くに矢上川が流れる住宅地の一角にあります。川に沿って桜並木があり、春は花見を楽しんでいます。元は隣の工場の社員寮であった建物を改築し、1階は7部屋、2階に9部屋の2ユニットとなっており、1階と2階の入居者同士の交流の機会を多く持っています。温かい雰囲気のあるホームです。

②今年度は、地域との交流とボランティアの受け入れを積極的に取り組んでいます。近隣の方とは、散歩の際に挨拶をしたり、ホームの周りの落ち葉を掃除して頂いたり、行事の際にはお声掛けをしたりと温かい交流を展開しています。敬老の日には、町内会から敬老のプレゼントと、近くの木月小学校の児童から手紙を頂き、入居者の喜びとなっています。又、現在、月2回、傾聴ボランティア(入居者とのお話し相手)の来訪を頂き、入居者の楽しみになっています。

③管理者の取り組みとして、多量の服薬は体に悪い影響を与え、投薬の見直しを行ない、医師との話し合いで、薬を必要最小限に留めた結果、入居者の表情が豊かになり、意欲も戻ってきているとの効果が出てきています。

④(福)ばなな会の理念である「明るく・楽しく・自由に」を行動指針とし、全職員が入居者に寄り添った介護の展開に努めています。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム のんびりーす
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の特性を活かした柔軟で多様なサービスを提供することができるよう、「明るく・楽しく・自由に」をモットーに全職員、その理念を共有し実践に努めている。	地域の特性を活かした柔軟で多様なサービスを提供することができるよう、「明るく・楽しく・自由に」をモットーに全職員、その理念を共有し、実践に努めています。理念のスタッフへの周知は、ホーム内に掲げている他、日頃から管理者が口にし、徹底できるよう努めています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域における環境資源（地域包括支援センター・地域民生児童委員・当グループ内における他の支援事業等）の有効活用。自治会活動・行事の積極的参加により、地域との関係を深める。	自治会に加入し、回覧板を回してもらっており、敬老の日には町内会からプレゼントと、木月小学校の児童の書いた手紙を頂きました。近所でボヤがあった時には、心配して声をかけて頂く等、良い関係が出来ています。近所には、ばななニュースを配布し、行事の際にはお声掛けをしています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、地域住民の方々や地域包括支援センター、ご家族様への活動報告と合わせ地域貢献に繋げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催している中で「地域包括支援センター、ご家族様、地域住民の方と、サービスの実際評価への取り組み状況等な就いて報告し、そこでの意見交換を、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は偶数月に年6回開催しています。メンバーは地域包括支援センター・民生委員・ボランティアの方、ホーム関係者で構成し、ご家族にも自由に出席して頂いています。会議ではサービスの実際評価への取り組み状況等について報告、そこでの意見交換を行い、サービス向上に活かしています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護を受けている入居者様が多いため福祉事務所・安心センターとの連携、相談、報告を密に行っている中で、居力関係を築いています。	生活保護を受けている入居者も多いため、市役所・福祉事務所・安心センターとの連携、相談、報告を密に行い、協力関係を築き、サービスに取り組んでいます。地域包括支援センターには、運営推進会議にも参加して頂き、協力を頂いています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロの手引き」による具体的な行為およびその弊害を、研修を通して職員全員が理解し、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠に関しては、玄関前が道路の為防犯および安全面から、入居時説明し施錠している。	「身体拘束ゼロの手引き」による具体的な行為及びその弊害を、研修を通して全職員が理解し、拘束の無いケアに取り組んでいます。朝の申し送り時にも、入居者の不快に感じない言葉の遣い方等を学んでいます。玄関の施錠に関しては、前が道路の為、入居時に家族に説明し、理解して頂いています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止」の研修を受け、それを全職員に周知し、理解度チェック及び正しい知識の共有を図り防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設は、生活保護受給者が多い為、生活保護関連の意識は強い。金銭面の管理等で安心センターや成年後見人を利用されている入居者様も多く、その必要性を学び、支援に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は「契約書」「重要事項説明書」を説明し、質問を受けながら、十分な理解と納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時や運営推進会議時に自由に意見交換ができるよう雰囲気作りや環境作りに努めている。ご意見箱を設置しており外部機関の相談窓口も提示している。	家族の意見・希望に関しては、来訪時また運営推進会議に出席頂いた時などに、自由に意見交換できる雰囲気作りに努めています。また、毎月手書きのお便りで、今月のご様子を、良い事も悪いことも含めお伝えしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部で行っている定期的な研修会時に、事業方針、活動状況など自由な意見交換の場を設けている。事業所では、朝夕礼時やケア会議時に意見を吸い上げ反映させている。	本部で定期的に行っている研修時や、月1回のケア会議・業務会議時に、全員が自由に意見交換できるように努めています。毎日の朝夕礼時には、連絡帳を活用し、変化にはその場で解決するよう努めています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各階層に応じた教育体系のもと、月次年次計画により人材育成が実施され、実績に応じた評価を行い、各自が向上心を持ち、働けるよう職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な社内研修を行っており、職員毎にその人に合った社外研修等に参加できる機会も確保し、個々のスキルアップを支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社外研修の参加の場を与え、職員全員が同業者と交流する機会を作っている。また、ネットワーク作りなど、他事業者との連携、知識の共有などの意見交換を積極的に行い、サービスの質の向上へ繋げている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の環境の変化による不安を取り除くよう、受容と傾聴に努め、ご本人が困っている事、不安な事、要望等について、しっかり受け止め、安心した暮らしが提供できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、ご家族様に対しても受容と傾聴に努めている。意向等よく話し合い、安心して納得して頂けるよう信頼し合える関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談初期からご本人及びご家族のニーズ、意向により必要とする支援を見極め、環境を整え、他のサービス利用も含めた幅広い支援ができるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができないところをさりげなく支援し、お互いに協力し合いながら共同生活が営めるよう信頼関係が築けるよう努めている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとって、精神的ケアでは大きな存在であるご家族様、そのご家族様がいつでも気軽に来られる雰囲気作りに努め、共にご本人を支えていく関係を築いていけるように努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	脳血管障害を持った方は昔馴染みの場所に行くことで混乱してしまう事があるので、グループホームが馴染みの場所になるよう環境作りに努め、支援していく。個々に合ったケアが必要だと感じている。	認知症が進むと、馴染みの場所や人と会うことで、混乱してしまうことがあるので、グループホームが馴染みの場所になるよう環境作りに努め、支援をしています。個々のケアが必要だと感じ、入居前のデイサービスの職員の来訪、家族対応のお墓参り等、関係継続の支援に努めています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数による共同生活の中、共有する空間での活動に孤立化しないよう個々のニーズに応え、入居者様同士協力し合い、支え合える環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もその後の様子伺いに尋ねたり、今までの関係性を大切にしながら必要に応じ、相談や支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の人の思い、希望・意向を表情で汲み取れるよう努めている。把握が困難な場合でも尊厳を持って関わり、検討している。	個々の人の思い、希望・意向を表情で汲み取れるよう努めています。把握が困難な場合でも尊厳を持って関わり、検討しています。日々の会話、行動で把握したことを記録し、職員、家族の意見も併せて、ケアプランを立てています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用に至るまでのご本人の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境について、ご本人やご家族様の協力を得ながらQOLの維持向上へ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の表情、行動、会話等からその人にとって過ごしやすい環境にあるのか、注意深く観察し、定期的なモニタリングを実施して現状の把握に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や主治医との連携を図りながら、毎月行うケア会議にて意見を反映し、ご本人の心身の変化を把握、モニタリング後、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は、家族・主治医との連携を図りながら、毎月行うケア会議でケアマネ・職員の意見も反映し纏め、作成しています。3ヶ月に一度の見直しをしているが、問題や変化が起きた場合は、随時見直し、現状に即した介護計画を作成するよう努めています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日昼夜の介護記録（業務日誌・生活記録・健康チェック表等）を個別に記入し、そのポイントを朝夕の申し送り時に報告して情報の共有を図っている。特に医師、ご家族の意見他、全ての情報は「連絡ノート」を活用し、周知徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々営む生活の中で生まれるさまざまなニーズに応える努力を図りながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の季節行事参加や事業所のイベント開催。防災訓練による地域住民との緊密化へ協働を図れるよう努め、穏やかに安心して暮らせるような環境作りに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医の確認と連携している地域の協力医療機関とのあり方を説明しご本人とご家族様の要望を大切に、納得いただいた上で、適切な医療（24時間医療連携）を受けられるよう支援している。	入居時に、本人の掛かりつけ医の確認と医療連携している地域の協力医療機関とのあり方を説明し、本人と家族の要望を大切に納得頂いた上で、適切な医療（24時間医療連携）を受けられるよう、支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日常の関わりの中で捉えた情報や気づき、疑問点等を訪問看護師に相談、協働しながら個々の入居者様への「日常の健康管理」に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、訪問診療の主治医より必要情報を提供し、早期退院へつながるよう努めている。また退院時には、ケースワーカー等を通じて情報交換し、病院関係者との関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご家族様としっかり読み合わせ確認し、その趣旨内容を理解して頂いている。また、医師看護師とも協議の上医療連携の同意を交わしている。	契約時に、重要事項説明書の重度化した場合の指針を家族としっかり読み合わせ、確認し、趣旨内容を理解して頂いています。また医師・看護師とも協議の上、看取りをする方向で話し合い、医療連携の同意を交わしています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルによる勉強会を実施しているが管轄の消防署の協力を得て、実践力を身につけていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練（総合訓練）を行い、避難経路等提示し、入居者様が避難できる方法を全職員が身に付け安全確保に努めている。また、訓練実施の際は、近隣住民の方々へも通知し地域との協力体制を築いている。	春と秋の年2回、消防署立ち会いの下で防災訓練（総合訓練）を行い、避難経路等提示し、入居者が避難できる方法を全職員が身に付け、安全確保に努めています。また、訓練実施の際は、近隣住民の方々へ通知し、協力体制を築いています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「個人情報保護規定マニュアル」の遵守を努め日々の支援において、プライバシー空間確保。声かけの際は、その人の人格を尊重し、誇りを損ねないよう配慮した接し方、及び記録管理を行っている。	「個人情報保護規定マニュアル」の順守に努め、日々の支援においてその方の人格を尊重し、誇りを損ねないよう配慮しています。職員には入社時に指導する他、日々気が付いた時に話し合っています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとりひとりが持つ意欲・積極性・嗜好性・願望等の思いを理解し、導き出せるような接し方で具体的なものを示し、自己決定できるように働きかけている。	/		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思や希望を第一に考え、ひとりひとりの日々の過ごし方のペースを大切に無理のない生活が送れるよう柔軟に対応、支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの整容や衣類についてはご本人と一緒に話し合い、楽しみながら気持ちの良い日々を過ごせるよう支援している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食による食材によって季節感のあるメニューになっており、カロリー、塩分についても健康に配慮されている。その調理の下ごしらえや盛り付け、後片付けを入居者様の能力に応じ、職員と一緒に楽しく行っている。	1・2階それぞれ別の配食を取っています。季節感のあるメニューになっており、カロリー、塩分についても健康に配慮されています。調理の下拵え、下膳、食器拭きなど入居者の能力に応じ、職員と一緒にこなしています。行事の時には、希望を募り、出前を取ったりして楽しんでいます。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスにより、栄養管理された献立になっている。調理の際は個々の方の摂取制限や嚥下能力に合わせ、きざみ、とろみ、おかゆ等の工夫をしている。また、水分摂取を含めた1日の摂取量を集計、健康管理に繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持は、ともすると誤嚥性肺炎にもつながり兼ねない重要な一つとして個々の人の能力、心身状態に応じた支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターン（リズム、尿意へのご様子）を把握し、定時声かけや誘導によって失敗やオムツの使用を少なくし、排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排泄パターンを把握し、定時声掛けや誘導によって、失敗やオムツの使用を少なくするよう支援しています。その人のペースで声掛けすることで、自立度を高められるよう努めています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の入居者様の排便状態を把握し、便秘防止へ工夫した飲食物の摂取を図り、適度な室内運動を交えながら予防に努めている。また便秘傾向の方には、主治医と相談の上、下剤、整腸薬の服用も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の体調など入浴に支障がないことを確認の上、入居者様の希望やタイミングに合わせて入浴している。安全面では、浴室と脱衣所の温度差に配慮し、季節には「ゆず湯」「菖蒲湯」などで楽しい入浴に繋げている。	基本的には週に2回、その日の体調など入浴に支障がないことを確認の上、入居者の希望やタイミングに合わせて、入浴しています。安全面では、浴室と脱衣所の温度差に配慮しています。柚子湯・しょうぶ湯などを利用して楽しく入浴できるよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動時間を多めにするなど安眠への工夫を図りながら、ご本人の意思を尊重し、その時々状況に応じて適宜休息を取り入れられるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの服薬情報については、全職員が「薬の説明書一式フィルム」及び「服薬チェック表」にて目的、副作用、用法、用量を理解しており、日々の服薬状況観察から変化があれば速やかに主治医への報告を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で家事（下膳・後片付け・掃除・洗濯物たたみ等）のお手伝いを個々の能力に応じてやっていただく事により「自己存在感」「生涯発達」を大切に張り合いのある暮らしへ支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を肌で感じていただく為にもできるだけお散歩や外出の機会を設けている。春はお花見など全員で外出。またご家族様と相談の上、お墓参りなどご家族と一緒に外出できるよう支援している。	季節を肌で感じて頂く為にも、出来るだけ散歩や外出の機会を設けています。声掛けをして、近くの川までアジサイ・桜・鯉などを見にお連れしています。春のお花見はお弁当持参で、車で全員で外出。また、ご家族と相談の上、お墓参りに外出できるよう、支援しています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散歩がてら飲み物や嗜好品などをご自分の財布から搬出、お金を持つ事の大切さ、それを使用できること存在感などひとりひとりの希望や能力に応じて、自己決定を尊重しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があった場合、電話でご家族の声を聴き、安心されたり、また個々の能力に合わせて暑中見舞いや年賀状の作成のお手伝いを支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「生活の場」として季節感のある花を飾ったり、折り紙で職員と一緒に飾り付けをしている。トイレは迷わないよう大きな字で表示したり、入居者様にとって不快や混乱を招くような刺激がないよう常に配慮し居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	リビングにはソファが置かれ、寛げる空間を作り、また、季節の花を飾り、職員と一緒に作った折り紙の飾りつけがなされ、生活の場として穏やかに過ごせるよう工夫されています。昼間はなるべく窓を開け、空気の入替えの換気を行い、芳香剤なども用いて、臭いなどに配慮して、居心地良く過ごせるよう配慮しています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時には落ち着いて居室でひとりの時間を持ったり、気の合った者同士でそれぞれの物語を語り合ったり、歌を唄ったりできるようリビングにはソファを置き、穏やかに過ごせるよう工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にはご本人やご家族と相談しながら「馴染みの物」を持参して頂くよう説明している。また、ご本人と相談し居室内の様態替えをしたり、ご本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	入居の際には、ご本人・ご家族と相談しながら、「馴染みの物」を持参して頂くよう説明しています。テレビ・タンス・仏壇・家族のお写真などに囲まれ、本人が居心地の良い空間になるよう支援しています。居室は手摺りが取り付けられ、安全に留意しています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・居室には手摺りを取り付け、テーブルやソファの配置を工夫し、その人にとって安全かつ自立できる動線として可能か。「自分のことは自分でする」の主体性を尊重した生活が送れるよう工夫している。			

事業所名	グループホーム のんびりーす
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

1. 5E+09

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の特性を活かした柔軟で多様なサービスを提供することができるよう、「明るく・楽しく・自由に」をモットーに全職員、その理念を共有し実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域における環境資源（地域包括支援センター・地域民生児童委員・当グループ内における他の支援事業等）の有効活用。自治会活動・行事の積極的参加により、地域との関係を深める。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、地域住民の方々や地域包括支援センター、ご家族様への活動報告と合わせ地域貢献に繋げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催している中で「地域包括支援センター、ご家族様、地域住民の方と、サービスの実際評価への取り組み状況等な就いて報告し、そこでの意見交換を、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護を受けている入居者様が多いため福祉事務所・安心センターとの連携、相談、報告を密に行っている中で、居力関係を築いています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロの手引き」による具体的な行為およびその弊害を、研修を通して職員全員が理解し、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠に関しては、玄関前が道路の為防犯および安全面から、入居時説明し施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止」の研修を受け、それを全職員に周知し、理解度チェック及び正しい知識の共有を図り防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設は、生活保護受給者が多い為、生活保護関連の意識は強い。金銭面の管理等で安心センターや成年後見人を利用されている入居者様も多く、その必要性を学び、支援に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は「契約書」「重要事項説明書」を説明し、質問を受けながら、十分な理解と納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時や運営推進会議時に自由に意見交換ができるよう雰囲気作りや環境作りに努めている。ご意見箱を設置しており外部機関の相談窓口も提示している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部で行っている定期的な研修会時に、事業方針、活動状況など自由な意見交換の場を設けている。事業所では、朝夕礼時やケア会議時に意見を吸い上げ反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各階層に応じた教育体系のもと、月次年次計画により人材育成が実施され、実績に応じた評価を行い、各自が向上心を持ち、働けるよう職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な社内研修を行っており、職員毎にその人に合った社外研修等に参加できる機会も確保し、個々のスキルアップを支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社外研修の参加の場を与え、職員全員が同業者と交流する機会を作っている。また、ネットワーク作りなど、他事業者との連携、知識の共有などの意見交換を積極的に行い、サービスの質の向上へ繋げている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の環境の変化による不安を取り除くよう、受容と傾聴に努め、ご本人が困っている事、不安な事、要望等について、しっかり受け止め、安心した暮らしが提供できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、ご家族様に対しても受容と傾聴に努めている。意向等よく話し合い、安心して納得して頂けるよう信頼し合える関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談初期からご本人及びご家族のニーズ、意向により必要とする支援を見極め、環境を整え、他のサービス利用も含めた幅広い支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができないところをさりげなく支援し、お互いに協力し合いながら共同生活が営めるよう信頼関係が築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとって、精神的ケアでは大きな存在であるご家族様、そのご家族様がいつでも気軽に来られる雰囲気作りに努め、共にご本人を支えていく関係を築いていけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	脳血管障害を持った方は昔馴染みの場所に行くことで混乱してしまう事があるので、グループホームが馴染みの場所になるよう環境作りに努め、支援していく。個々に合ったケアが必要だと感じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数による共同生活の中、共有する空間での活動に孤立化しないよう個々のニーズに応え、入居者様同士協力し合い、支え合える環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もその後の様子伺いに尋ねたり、今までの関係性を大切にしながら必要に応じ、相談や支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の人の思い、希望・意向を表情で汲み取れるよう努めている。把握が困難な場合でも尊厳を持って関わり、検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用に至るまでのご本人の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境について、ご本人やご家族様の協力を得ながらQOLの維持向上へ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の表情、行動、会話等からその人にとって過ごしやすい環境にあるのか、注意深く観察し、定期的なモニタリングを実施して現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や主治医との連携を図りながら、毎月行うケア会議にて意見を反映し、ご本人の心身の変化を把握、モニタリング後、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日昼夜の介護記録（業務日誌・生活記録・健康チェック表等）を個別に記入し、そのポイントを朝夕の申し送り時に報告して情報の共有を図っている。特に医師、ご家族の意見他、全ての情報は「連絡ノート」を活用し、周知徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々営む生活の中で生まれるさまざまなニーズに応える努力を図りながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の季節行事参加や事業所のイベント開催。防災訓練による地域住民との緊密化へ協働を図れるよう努め、穏やかに安心して暮らせるような環境作りに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医の確認と連携している地域の協力医療機関とのあり方を説明しご本人とご家族様の要望を大切に、納得いただいた上で、適切な医療（24時間医療連携）を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日常の関わりの中で捉えた情報や気づき、疑問点等を訪問看護師に相談、協働しながら個々の入居者様への「日常の健康管理」に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、訪問診療の主治医より必要情報を提供し、早期退院へつながるよう努めている。また退院時には、ケースワーカー等を通じて情報交換し、病院関係者との関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご家族様としっかり読み合わせ確認し、その趣旨内容を理解して頂いている。また、医師看護師とも協議の上医療連携の同意を交わしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルによる勉強会を実施しているが管轄の消防署の協力を得て、実践力を身につけたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練（総合訓練）を行い、避難経路等提示し、入居者様が避難できる方法を全職員が身に付け安全確保に努めている。また、訓練実施の際は、近隣住民の方々へも通知し地域との協力体制を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「個人情報保護規定マニュアル」の遵守を努め日々の支援において、プライバシー空間確保。声かけの際は、その人の人格を尊重し、誇りを損ねないよう配慮した接し方、及び記録管理を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとりひとりが持つ意欲・積極性・嗜好性・願望等の思いを理解し、導き出せるような接し方で具体的なものを示し、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思や希望を第一に考え、ひとりひとりの日々の過ごし方のペースを大切に無理のない生活が送れるよう柔軟に対応、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの整容や衣類についてはご本人と一緒に話し合い、楽しみながら気持ちの良い日々を過ごせるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配食による食材によって季節感のあるメニューになっており、カロリー、塩分についても健康に配慮されている。その調理の下ごしらえや盛り付け、後片付けを入居者様の能力に応じ、職員と一緒に楽しく行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスにより、栄養管理された献立になっている。調理の際は個々の方の摂取制限や嚥下能力に合わせ、きざみ、とろみ、おかゆ等の工夫をしている。また、水分摂取を含めた1日の摂取量を集計、健康管理に繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持は、ともすると誤嚥性肺炎にもつながり兼ねない重要な一つとして個々の人の能力、心身状態に応じた支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターン（リズム、尿便意へのご様子）を把握し、定時声かけや誘導によって失敗やオムツの使用を少なくし、排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の入居者様の排便状態を把握し、便秘防止へ工夫した飲食物の摂取を図り、適度な室内運動を交えながら予防に努めている。また便秘傾向の方には、主治医と相談の上、下剤、整腸薬の服用も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の体調など入浴に支障がないことを確認の上、入居者様の希望やタイミングに合わせて入浴している。安全面では、浴室と脱衣所の温度差に配慮し、季節には「ゆず湯」「菖蒲湯」などで楽しい入浴に繋げている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動時間を多めにするなど安眠への工夫を図りながら、ご本人の意思を尊重し、その時々状況に応じて適宜休息を取り入れられるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの服薬情報については、全職員が「薬の説明書一式フィルム」及び「服薬チェック表」にて目的、副作用、用法、用量を理解しており、日々の服薬状況観察から変化があれば速やかに主治医への報告を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で家事（下膳・後片付け・掃除・洗濯物たたみ等）のお手伝いを個々の能力に応じてやっていただく事により「自己存在感」「生涯発達」を大切に張り合いのある暮らしへ支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を肌で感じていただく為にもできるだけお散歩や外出の機会を設けている。春はお花見など全員で外出。またご家族様と相談の上、お墓参りなどご家族と一緒に外出できるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散歩がてら飲み物や嗜好品などをご自分の財布から搬出、お金を持つ事の大切さ、それを使用できること存在感などひとりひとりの希望や能力に応じて、自己決定を尊重しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があった場合、電話でご家族の声を聴き、安心されたり、また個々の能力に合わせて暑中見舞いや年賀状の作成のお手伝いを支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「生活の場」として季節感のある花を飾ったり、折り紙で職員と一緒に飾り付けをしている。トイレは迷わないよう大きな字で表示したり、入居者様にとって不快や混乱を招くような刺激がないよう常に配慮し居心地良く過ごせるよう工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時には落ち着いて居室でひとりの時間を持ったり、気の合った者同士でそれぞれの物語を語り合ったり、歌を唄ったりできるようにリビングにはソファを置き、穏やかに過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にはご本人やご家族と相談しながら「馴染みの物」を持参して頂くよう説明している。また、ご本人と相談し居室内の様様替えをしたり、ご本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・居室には手摺りを取り付け、テーブルやソファの配置を工夫し、その人にとって安全かつ自立できる動線として可能か。「自分のことは自分でする」の主体性を尊重した生活が送れるよう工夫している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム のんびりーす

作成日

平成25年10月15日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員教育の強化急変時や事故発生時の適確な対応。 十分な知識。 社員が定着しない。	任せられる人材を育てる。 基本の「報・連・相」の徹底意識改革。自覚を持つ信頼関係を作る。	定期的な勉強会を引き続き実施する。 日々指導する。	26年 10月
2	18	その人が、その人らしく暮らせるためには、どうしたら良いのか？ 環境整備	一人ひとりの想い、希望、意向の見直しケアの方向性を統一する。	定期的な介護計画の見直し。 職員全員へ徹底する。	26年 10月
3	1	地域に密着する	ここにグループホームがある事をもっと多くの方々に知ってもらおう。	地域行事に積極的に参加する。 ポスティングと、地域包括センター近隣への定期訪問をする。	26年 10月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。